

重点項目

7

地域の中で自分のできることに取り組む人づくり

自分のできることや地域の活動などに主体的に取り組む人をつくる

個人の価値観や生活スタイルの変化などにより、地域での行事や活動に参加・協力する人が少なくなっています。

地域の一員であるという意識を持ち、地域の中で自分のできることに取り組み、様々な活動に関わることで、住民同士の関係性が良好となり、活動も活発化し、元気な地域が作られていきます。

活気ある暮らしやすい地域をつくるためには、一人ひとりが地域と関わり、自主的に行動していくことが必要です。

「できること・できそうなこと」に関するご意見

地域懇談会	関係機関・団体等との意見交換会
<ul style="list-style-type: none">●小・中学生の親世代が地域活動に参加する。●得意分野、趣味活動などで講師を担う。●退職後の活動の場をつくる。●素晴らしい活動はみんなで応援する。	<ul style="list-style-type: none">●町内会行事などへ協力、参加する。●地域活動のノウハウを提供する。●社員のボランティア活動や地域活動をバックアップする。



具体的な取組み

地域住民

- 町内会行事や地域活動、ボランティア活動などに参加する。
(町内会のゴミ拾い、地域まつりの手伝い、子ども会やPTA行事への参加など)
- 自分の趣味や特技を活かし、地域活動に参加・協力していく。
(福祉施設での芸能披露、大工技術などを活かした修繕ボランティアなど)
- 地域で開催されるボランティア講座などに参加する。

町内会・住民組織 ボランティアグループ等

- 地域の活動に参加するきっかけとなる取組みを行う。
(地域活動・ボランティア活動の体験会、ボランティア募集情報の発信など)
- 趣味や特技を持つ住民を発掘し、地域人材一覧などを作成する。
- 地域で開催されるボランティア講座などの情報を広報する。
(回覧板での周知、町内会館掲示板への掲示など)
- 地域活動やボランティア活動を応援する。
(地域活動・ボランティア活動報告会の開催、ボランティア表彰への推薦など)

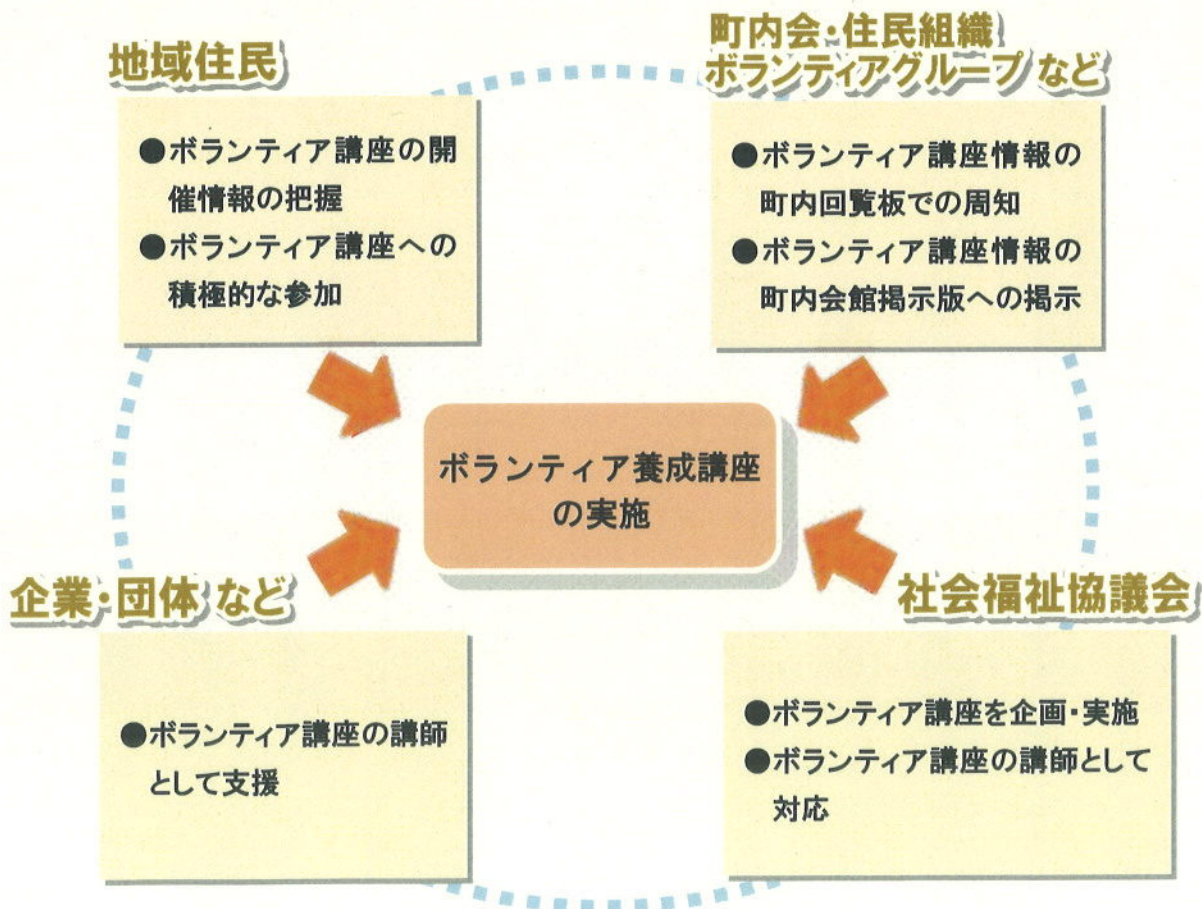
企業・団体等

- 地域の一員として、様々な行事や地域活動に参加する。
(地域まつりの手伝い、地域運動会への参加など)
- それぞれの専門性や特性、技術などを活かして地域で活動する人を支援する。
(福祉事業所の介護技術指導、SNSの活用指導など)
- ボランティア講座などの講師を務める。
- 住民やボランティアが活動しやすい環境づくりに向けた支援を行う。
(企業・団体内にボランティア交流スペースを設置、SNSの環境整備など)

社会福祉協議会

- 気軽に参加できる地域活動などを町内会・住民組織などと一緒に企画する。
- 趣味や特技を持つ住民を発掘する。
- ボランティア講座を企画し実施する。
(ボランティア入門講座、テーマ別ボランティア養成講座)

【取組みと関わり方の一例】



重点項目

2

リーダーを担える人づくり

地域活動のリーダーや次世代の担い手をつくる

地域での活動を進めていくためには、多くの人たちの参加・協力に加え、先頭に立って行動するリーダーが必要です。

ただ、これまでの地域活動のリーダーは定年退職後の世代に依存せざるを得ない状況があり、今後の雇用形態が変わっていくと、その傾向がますます高くなることが考えられます。

そうした中で地域活動の継続や新たな取組みを進めていくためには、より広範な世代からの参画が必要であり、とりわけこれからを担う若い人たちの参画が求められます。

若い世代が活動に参加しやすい風土をつくるとともに、若い世代から地域活動などの企画や立案に加わってもらいながら、今後の地域活動のリーダーや次世代の担い手づくりを進めていくことが必要です。

「できること・できそうなこと」に関するご意見

地域懇談会	関係機関・団体等との意見交換会
<ul style="list-style-type: none">●若い人たちに役割を持ってもらう。●中学生に地域活動への参加を促す。●若い世代が町内行事などの中心となり、企画・実施する。	<ul style="list-style-type: none">●子どもや若い人からイベントなどの企画に加わってもらい、新しい発想を取り入れる。●地域住民だけでは実施することが難しいイベントなどを実施し、協力する。●専門性を活かした地域活動を実践する。



具体的な取組み

地域住民

- 小・中・高・大学生や親世代など早い段階から町内会活動や地域活動に関わる。
(中高生の地域まつりの企画、お楽しみイベントへのアイデアの応募など)
- リーダーを養成・育成することを目的とした養成講座などに参加する。
(サロンリーダー養成講座への参加、まちづくり研修会への参加など)

町内会・住民組織 ボランティアグループ等

- 若い人たちへ町内会活動や地域活動の参加を呼びかけ参画を得る。
- 地域で開催されるリーダー養成講座などの情報を広報する。
(回覧板での周知、町内会館掲示板への掲示など)
- リーダーやリーダーを支える人材を発掘し、一覧表などを作成する。

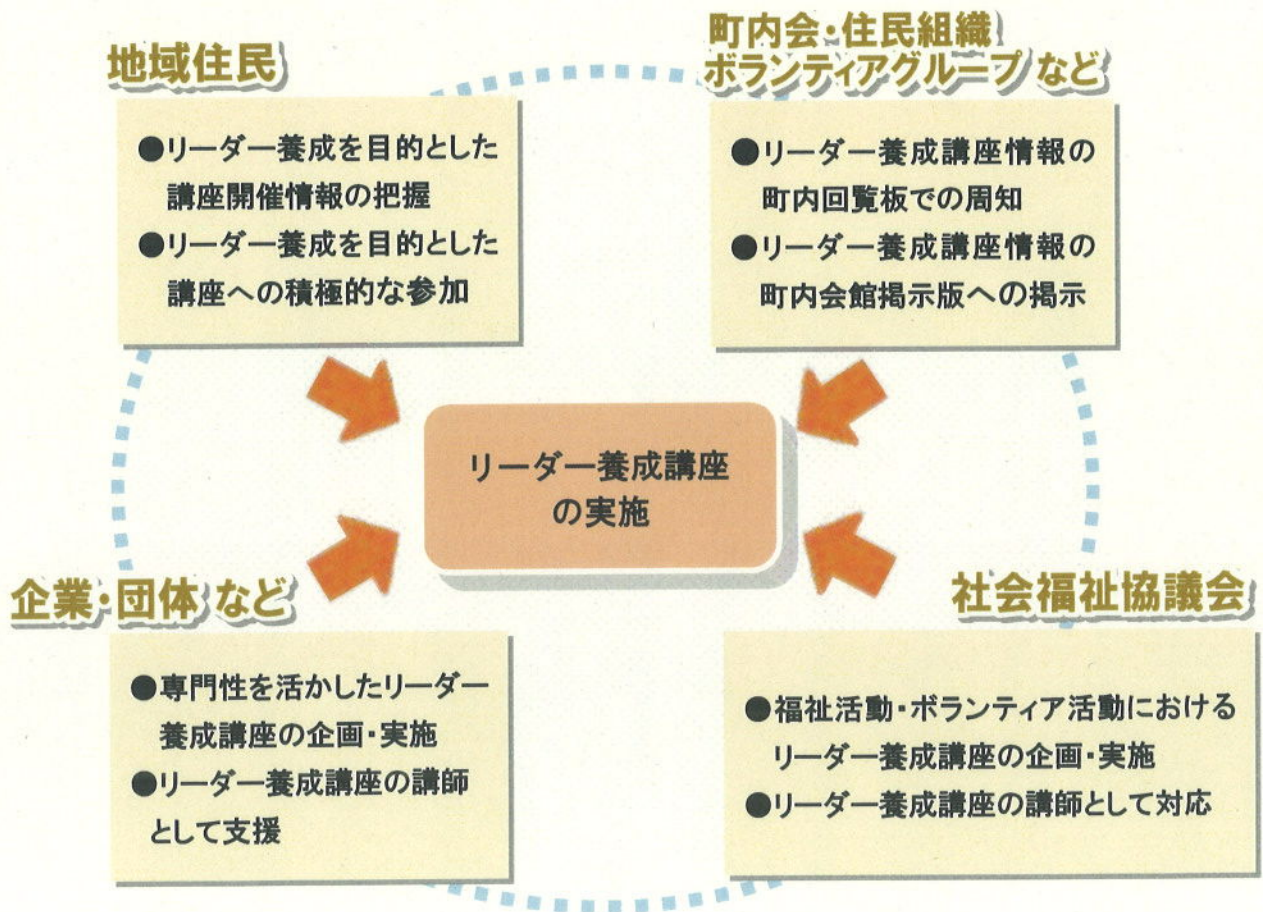
企業・団体等

- 自らがリーダーとして地域活動を実践する。
(まちづくりフェスタの開催、福祉講演会の開催など)
- それぞれの専門性や特性などを活かしてリーダー養成講座を開催する。
(まちづくりリーダー養成講座、シニアリーダー養成講座など)

社会福祉協議会

- 学校やPTA・企業などと連携し、地域活動や福祉活動に関する「福祉教育」を若い世代に対して行う。
(小中学生に対する福祉教育の実施、企業人に対する福祉教育の実施など)
- 福祉分野で活動するリーダー養成・育成講座を開催する。
- リーダー・サブリーダーを発掘する。

【取組みと関わり方の一例】



実施方針 3 【連携・協働の仕組みをつくる】



誰もが暮らしやすい地域づくりを進めるために、みんなが協力し合う仕組みをつくろう

暮らしやすい地域をつくるためには、地域の課題やそこで暮らす人たちの生活上の課題を把握し、その解決を図ることが求められます。

そのためには、課題の内容に応じて、家庭、班、町内会、小学校区、地域自治区といった生活圏域ごとに協力し合い取り組む仕組みをつくるとともに、地域住民、地域に関わる様々な組織や団体、行政、社会福祉協議会などがそれぞれの役割を担いながら連携し、解決に向かって取り組む仕組みづくりが必要です。

このように、お互いが地域課題や情報を共有し、地域全体で課題を解決していくことができる包括的な仕組みをつくっていくことが重要です。

【地域懇談会での皆さんの声】

- 企業と地域がつながることによって地域の活性化につながる。
- それぞれの団体のつながりが薄い。
- 町内会内の協働はあるが、他の町内会との協力関係はほとんどない。
- みんなで支え合える地域になればいい。



地域での関係機関・団体との連絡会



地域福祉推進委員会

重点項目

7

生活圏域の中で一人ひとりがつながる仕組みづくり

隣近所や町内会、小学校区などの生活圏域ごとに話し合いや取組みが行われ、一人ひとりがつながる仕組みをつくる

生活上の課題は、一人ひとりの努力で解決できるものもありますが、自分や家族の力では解決することが難しい場合は、隣近所や班、町内会といった、住民同士のつながりの中で話し合い、考え、協力して取り組むことで、解決できることが多くあります。

子どもや高齢者、障がいのある方に加え、経済的に困窮している方など地域で暮らしていく上での課題は人それぞれです。そうした個々の課題に対しても生活圏域ごとに住民同士がつながり、支え合う仕組みをつくっていくことが必要です。

「できること・できそうなこと」に関するご意見

地域懇談会	関係機関・団体等との意見交換会
<ul style="list-style-type: none"> ●いろいろな年代で意見交換する機会をつくる。 ●町内会長同士が普段から懇談し、情報を交換したり、町内会を超えた拡大役員会を開催したりし、関係性づくりを進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域での懇談会などに参加し、住民とのつながりをつくっていく。 ●高齢者と多世代がつながる核となる。 ●コミュニケーションを図る機会をつくる。



具体的な取組み

地域住民

- ご近所と話し合う機会を持つ。(お茶飲み会や世間話の機会を増やす)
- ご近所で気がかりな人や困りごとを抱えている人がいたら、声をかけたり話を聞いたりする。(プライバシーを尊重して対応)
- 心配ごとや困りごとは家族やご近所、班長など身近な人に相談する。
- 班長、町内会長、地区担当民生委員・児童委員の顔と名前を覚え、必要に応じて相談する。

町内会・住民組織
ボランティアグループ等

- 班や町内会で生活上の心配ごとや課題などについて話し合う機会をつくる。
- 子ども会、青年会、老人クラブなどそれぞれで地域づくりや地域活動について話し合う機会をつくる。
- 近隣の町内会長同士が懇談する機会を設ける。

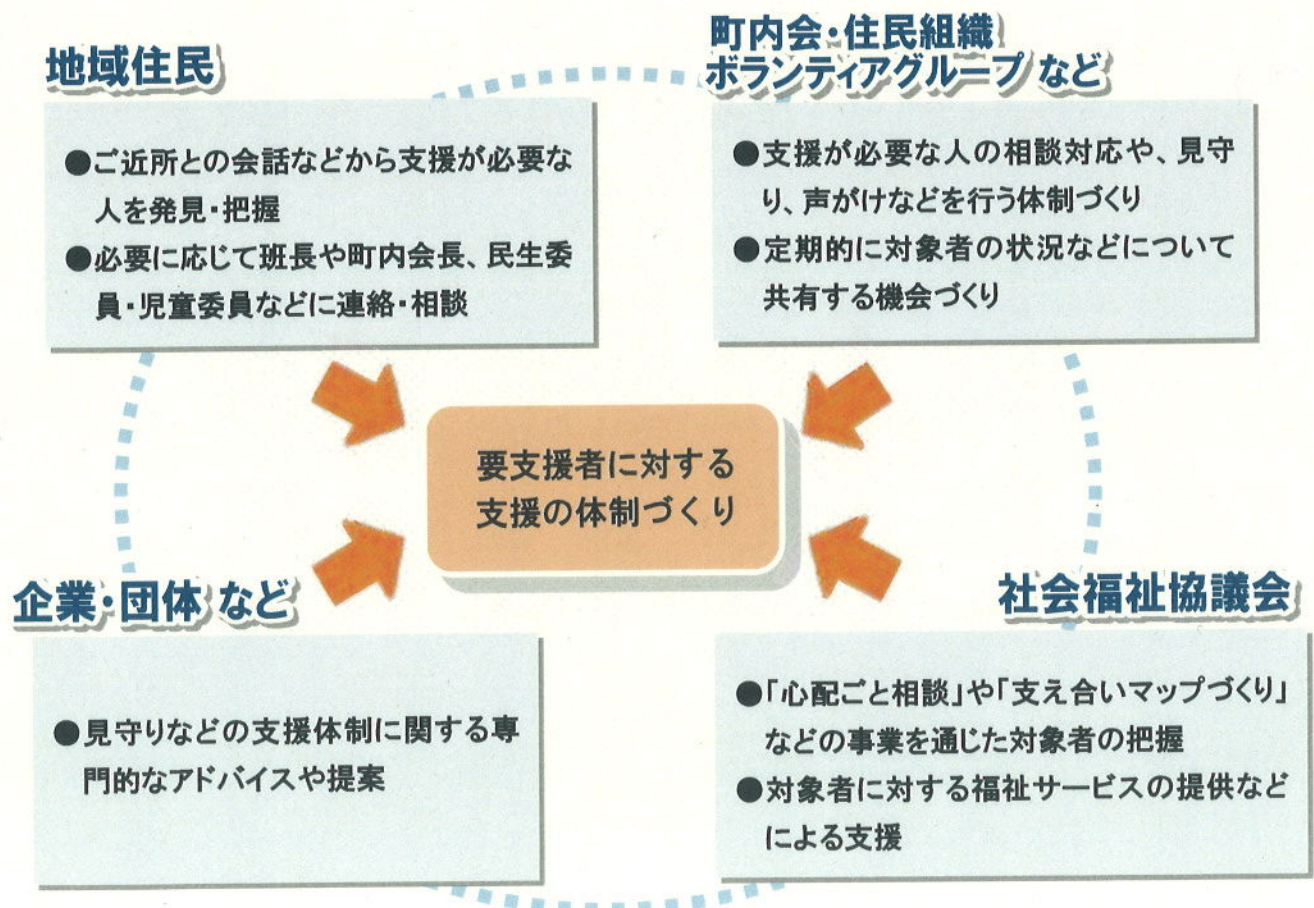
企業・団体等

- 話し合いの内容に応じて地域の集会や懇談会などに参加し、それぞれの立場から意見やアドバイス、提案などを行う。
- 住民同士の話し合いが円滑に行われるよう支援する。
(専門性などを活かした調整役を担う、話し合いの場を提供するなど)

社会福祉協議会

- 各支所を窓口として住民の心配ごと相談に対応する。
- 住民同士の地域懇談会の実施により話し合いの機会をつくり、情報共有を図る。
- 町内会での話し合いから小学校圏域での話し合いにつなげていくなど、必要に応じエリアを広げて話し合える機会をつくっていく。

【取組みと関わり方の一例】



重点項目

2

地域住民や地域の様々な関係団体がつながる仕組みづくり

地域住民や地域福祉に関わる民間団体、事業所、企業、学校、行政、社会福祉協議会などがつながる仕組みをつくる

地域には、企業や商店、福祉事業所、学校、市民活動団体など様々な組織や団体関わっています。

地域や生活上の課題を解決していくためには、住民同士の協力に加え、こうした組織や団体などとのつながりを持ち、その特性や専門性などによる協力を得ながら、地域ぐるみで活動に取り組む体制づくりが必要です。

こうした体制に加え、行政や社会福祉協議会とも連携を図りながら、地域全体でつながる仕組みをつくっていくことが重要です。

「できること・できそうなこと」に関するご意見

地域懇談会	関係機関・団体等との意見交換会
<ul style="list-style-type: none">●地域団体などとの交流会を開催する。●地域活動を進める中で、行政、社協がつながる協議の場をつくる。●テーマを持って、地域と企業、施設などが連携する。	<ul style="list-style-type: none">●つながるためのコーディネート役を担い、人を動かす。●専門性を活かして地域活動の整理を行う。●それぞれの特性を活かして地域とつながり、求められる役割を担っていく。



具体的な取組み

地域住民

- 地域の様々な相談窓口や支援機関などを把握する。
- 関係機関や団体などの取組みや活動を把握する。
- 社会福祉協議会が実施する地域懇談会や関係機関、団体との懇談会、交流会などに参加する。

町内会・住民組織 ボランティアグループ等

- 町内会や地域の行事、活動などの情報を住民や関係機関、団体などに発信し、参加や協力を呼びかける。
- 住民組織などが調整役となって住民や関係機関、団体などに呼びかけ、地域や生活上の課題などを解決していくための連携・協働について話し合う機会をつくる。

企業・団体等

- 住民や住民組織などとの話し合いに参加し、専門性や特性、技術などを活かして協力する。
- 企業や団体などそれぞれの分野ごとにつながりを持ち、地域づくりや福祉活動に参加・協力する体制をつくる。
- 自分たちの地域貢献活動などを広報紙やホームページなどで地域に発信する。

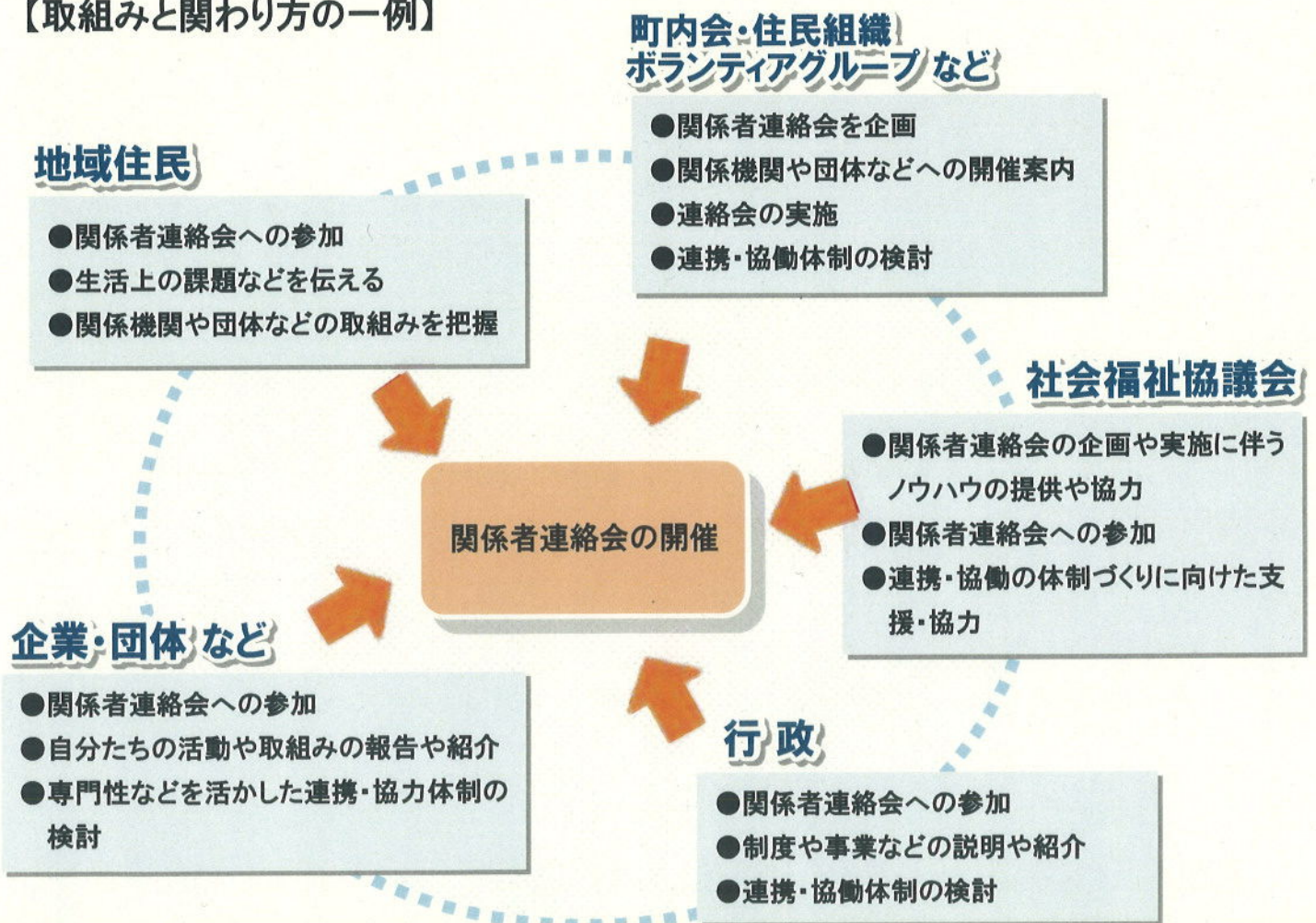
社会福祉協議会

- 地域における生活上の課題などを共有し、関係機関や団体、行政などに呼びかけ、問題の解決やサポート体制などについて検討する場をつくる。
(関係団体・関係者の地域懇談会の開催、地域福祉推進委員会 (P44 参照) による検討など)
- 地域で実施されている福祉活動などを整理して見える化し、地域全体での連携・協働の体制や仕組みづくりにつなげていく。

行政

- 地域住民の福祉に対するニーズや課題を的確に把握しながら、関係機関と連携し、地域の実情に応じた地域福祉活動の企画や実施に取り組む。

【取組みと関わり方の一例】



実施方針 4 【支え合いの活動に取り組む】



誰もが主体的にふれあいや支え合いの活動に取り組もう

地域の中でいきいきと暮らし続けるためには、一人ひとりが持っている力を発揮し活躍できる場面や人と人が触れ合い、つながり合うことができる環境があり、思いやりの心で暮らしを支える活動が広がる地域をつくっていくことが必要です。

地域の一員として、暮らしを良くするための新たな取り組みや、気軽に何でも話し合える交流の場づくり、支え合いや助け合いの活動に主体的に取り組むことが重要です。

【地域懇談会での皆さんの声】

- 近隣の交流が少なくなり不安を感じている。
- 一人暮らしの世帯が多くなり孤独死につながりやすい。高齢者はゴミだしや買い物が大変。
- 安心して子育てができる地域になればいい。
- 世代を超えて交流し、困った時に助け合える地域になればいい。



住民組織による「お買物ツアー」



地域での世代間交流サロン

重点項目

7

支え合い活動の推進

安心して暮らすことができるよう、生活上の困りごとを地域で解決していく活動に取り組む

私たちの暮らす地域は、それぞれ歴史や文化、環境や人口構成などが異なるように、生活していく上での課題も地域によって違いがあります。

暮らしやすい地域をつくるためには、その地域に必要な活動を継続的に進めていくとともに、社会状況・環境などの変化に応じた新たな活動への取り組みが必要になることも考えられます。

そのため、地域住民がより主体的に自らの課題解決に向けた活動に加わり、みんなで力を合わせて取り組むことが必要です。

「できること・できそうなこと」に関するご意見

地域懇談会	関係機関・団体等との意見交換会
<ul style="list-style-type: none"> ●一人暮らしの高齢者などへ電話による安否確認や夜間家の灯りが点灯しているかの確認などの見守り活動を行う。 ●買い物ツアーを地区全体で実施する。 ●隣近所で子どもを見る。(世話する) 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域住民の声を聴き、求められる具体的な福祉活動を実践する。 ●子ども食堂や移動支援などの活動を実施する。 ●活動に必要な資金や人、物的な支援を行う。



具体的な取り組み

地域住民

- 日頃の関わりを大切にした見守りを行う。
(回覧板の手渡し、夜間の灯りの点灯確認、ゴミ出し時などの児童の見守りなど)
- 地域で行われる様々な支え合いの活動に参加・協力する。

町内会・住民組織
ボランティアグループ等

- 組織的な見守りを行う体制をつくる。
(見守りネットワークの組織化、見守り担当者の設置、おはようコールなど)
- 困りごとや心配ごとに対する支え合い活動に取り組む。
(買い物ツアー、地域除雪隊、経験者による子ども預かりなど)
- 困りごと・心配ごとの声を福祉関係者につなげる。
(地域の相談所の開設、社会福祉協議会・地域包括支援センターへの相談など)